

北上山系開発地域

---

土地分類基本調査

---

鶯 宿

5万分の1

国土調査

岩手県

1979

## ま え が き

本県の農業は、年々成長を続けているが、豊かで住みよい生活環境を整え、開発と保全の両面で調和のとれた土地利用を進めてゆかなければならない。

とくに農林業部門では、需要の変化していく中で、これに対処し食糧や林産物の安定的な供給が必要であり、生産性の高い大規模な生産基地が必要である。全国的な土地利用の再編成という見地からも本県の恵まれた広大な土地を有効に利用し、観光的機能も含めた農畜産物、林産物の一大供給基地として開発を促進するとともに、豊かな自然環境の保護に努めなければならない。

したがって、土地の基本的性格を規定している地形、表層地質、土壌及び関連事項等の自然的条件を科学的、かつ総合的に調査し、その結果を相互的に有機的に組合せ、土地利用の可能性を見いだすことが必要である。

以上の観点より、都道府県が行なう土地分類基本調査として国土庁より指定を受け、岩手県土地分類基本調査作業規程に基づき、建設省国土地理院発行の縮尺5万分の1地形図「鶯宿」を基図として調査を行なったものであり、地域の特性に応じた開発方式、保全及び防災対策等利用の適正化のため、広く関係者の方々にご利用いただければ幸いです。

なお、この調査にあたって、資料の収集、調査、図簿の作成等にご協力いただいた機関並びに関係各位に対し深く感謝申し上げます。

昭和54年12月

岩手県農政部長 村井政吉

# 目 次

まえがき

総 論

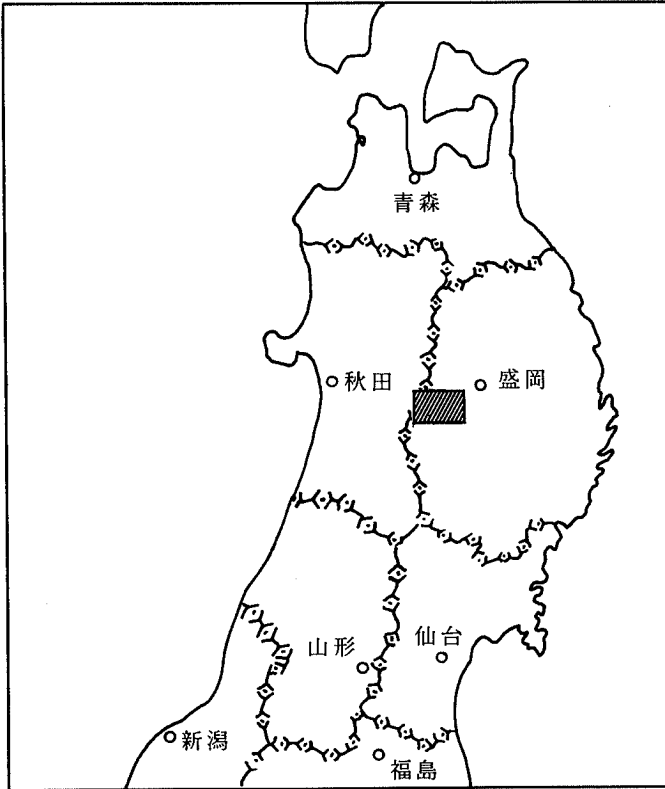
I 位置および行政区界	1
1 位 置	1
2 行政区界	1
II 地域の特性	3
1 自然的条件	3
2 社会経済的条件	5
3 土地利用の概況	8
III 主要産業の概要	11
IV 開発の現状と方向	16

各 論

I 地形分類	19
1 地形概説	19
2 地形各論	20
II 表層地質	24
1 表層地質概説	24
2 表層地質各論	25
III 土 壤	29
1 山地および丘陵地の土壌	29
2 台地および低地の土壌	33
IV 傾斜区分	35
V 水系 , 谷密度	37
VI 防 災	39
VII 起 伏 量	42

あとがき

# 位置図



# 総論

## I 位置及び行政区界

### 1 位置

「鶯宿」図幅は岩手県の中部、奥羽山地のほぼ中央部に位置し、図幅の大部分は岩手県であり、一部秋田県に属しており20万分の1地勢図「秋田」図葉に含まれる。

図幅の経緯度的位置は、東経140°15′北緯39°30′～39°40′の範囲にあり、図幅内実面積は397.00 km<sup>2</sup>である。

第1表 図幅内の市町村別面積

市町村名	図幅内面積		市町村全面積 (km <sup>2</sup> ) B	A / B × 100 (%)
	実数 (km <sup>2</sup> ) A	構成 (%)		
雫石町	198.81	50.08	608.01	32.70
紫波町	10.17	2.56	238.32	4.27
石鳥谷町	12.39	3.12	118.21	0.10
沢内村	102.65	25.87	288.47	35.58
花巻市	25.02	6.30	384.73	6.50
盛岡市	0.01	0.00	398.72	0.00
角館町(秋田県)	10.02	2.52	157.73	6.35
田沢湖町( " )	37.93	9.55	673.51	5.63
計	397.00	100.00	2,867.70	13.85

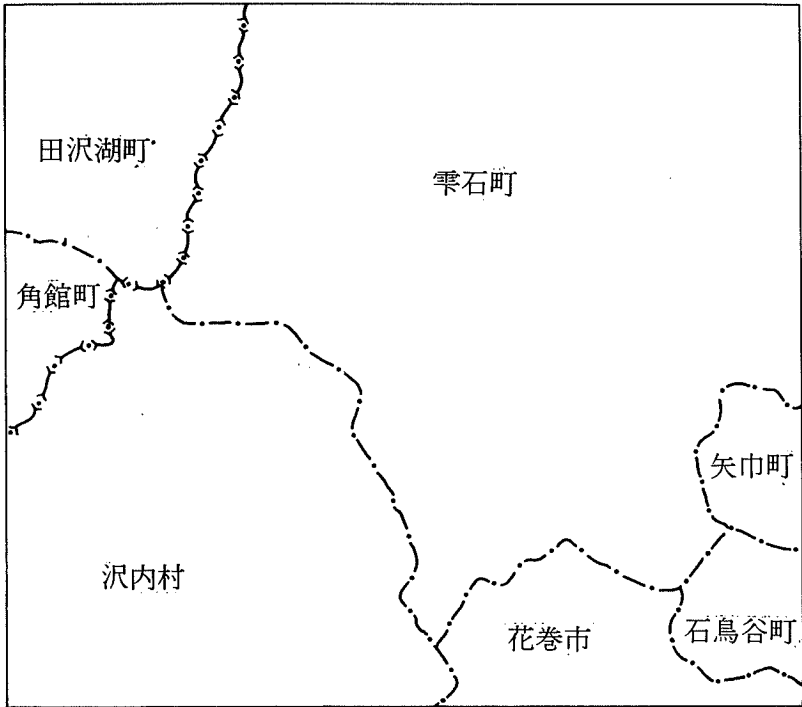
資料：図葉内面積…建設省国土地理院調べ

市町村全面積…昭和50年国勢調査

### 2 行政区界

4 図幅の行政区界は岩手県が6市町村、秋田県は2町となっている。

第1図 行政区界



第1表及び第1図でも判明するとおり、図幅の大部分は零石町及び沢内村なので、今後の説明はこの両町村を主体に進めていくこととする。

## II 地域の特性

### 1 自然的条件

#### ア 気象条件

本図幅内の地域は奥羽山系の真只中にあり典型的な山岳気候を示している。

本図幅内には下表のような観測所がある。

第2表 気象観測所の位置

観測所名	所在地	北緯	東経	水系	図幅内の関係位置
盛岡	盛岡市山王町7-60	39°41'7"	141°10'1"	北上川	図幅外
花巻	花巻市桜木町2丁目7	39°22'7"	141°06'7"	"	"
雫石	岩手郡雫石町第3地割7	39°41'5"	140°58'3"	"	"
若畑	和賀郡沢内村大字川舟15-12	39°30'4"	140°49'9"	"	南端中央
生保内	秋田県仙北郡田沢湖町生保内	39°41'8"	140°43'6"	"	図幅外

資料：農業気象10年報（昭和40～49年）

年平均気温は、雫石町9.4℃、沢内村は8℃でどちらも低温地帯に入るが特に沢内村は低く農作物に与える影響も大きく、しばしば冷害を受けている。

降雨量は、1,734～2,591mmで県内では大きい値が出ているが、これは11月～3月までの積算換算値が610～1,096mmと非常に大きく作物成育期間中の降雨量は他地域より少ない。

又初霜は10月初旬から終霜は5月中旬で晩霜被害がしばしば見受けられる。

初雪は初霜より約1ヶ月おそく11月初旬、終雪は20～30日前後早く4月中旬頃である。



第3表 観測所別気象

項 目 \ 観測所名	若 畑	雫 石	生 保 内
年平均 気 温 (°C)	8	9.4	9.3
” 最高気温 (°C)	12.5	14.2	14.1
” 最低気温 (°C)	3.5	4.5	4.5
年 降 水 量 (mm)	2,591	1,734	2,228
最 多 風 向	S. W.	W.	S. E.
霜 日 数	7	25	17
初 霜 月 日	10. 9	10. 9	10. 9
終 霜 月 日	5. 11	5. 12	5. 9
積 雪 日 数	110	110	108
初 雪 月 日	11. 5	11. 8	11. 8
終 雪 月 日	4. 19	4. 13	4. 14

資料：岩手県及び秋田県農業気象10年報

(図幅周辺部のみ)

#### イ 土地条件

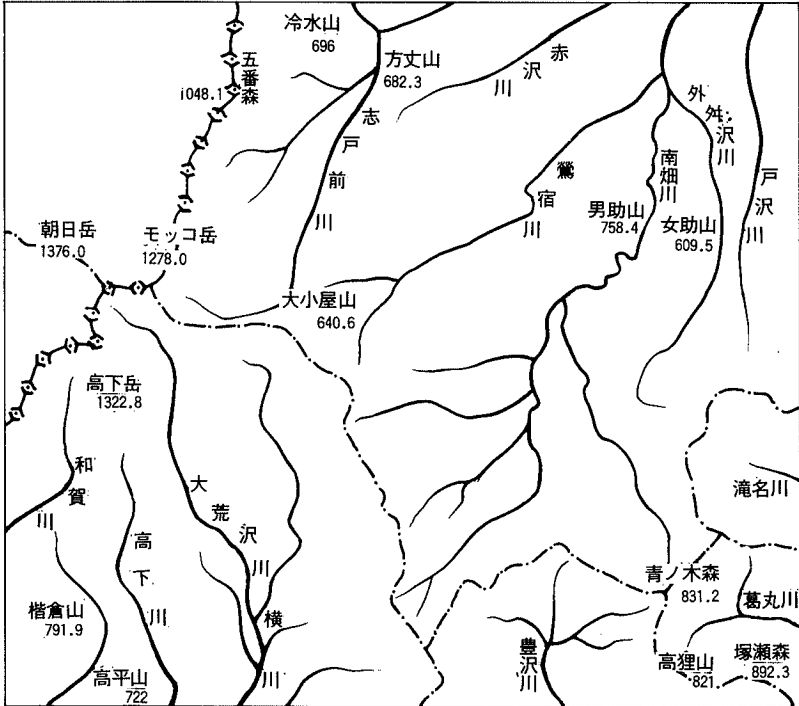
「鶯宿」図幅内の地域は、奥羽山系の中央部に位置することから、高山が非常に多い。

即ち、図葉北西部には和賀岳（標高1,440 m）、高下岳（同1,323 m）、朝日岳（同1,375 m）、モッコ岳（同1,278 m）、五番森（同1,048 m）が秋田県と境を接し、中央付近にも7～900 m前後の山が無数に林立するため、大河川はないが中小河川は数多い。東部から列挙すれば矢櫃川、外舛沢川、南畑川、鶯宿川、志戸前川などがモッコ岳、大小屋山、山伏峠、中山峠、青木森を分水嶺として北方に流下し、南方には豊沢川、荒沢川、横川が流れている。

本図幅はこのようにその大部分が山と川で占められているがその谷あいには台地が散在し、昔ながらの耕地があり又近年は酪農が増えてきており、既耕地の上部、山す

そこに草地在造成され、これらを合せた複合経営がなされている。

第2図 主要河川並びに主要山岳図



## 2 社会経済的条件

### ア 交通網

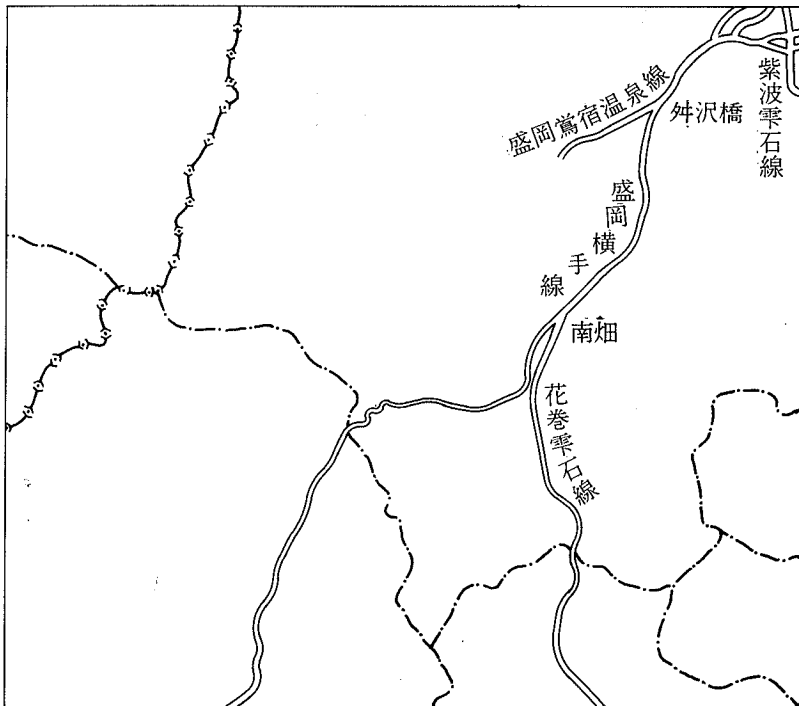
本図幅内の交通網は、第3図でも示されるように地形に制約を受け、主要路線は国道46号線から分れて雫石町、沢内村を經由して湯田町に至る主要地方道盛岡横手線があり、本図幅北東から南西に斜めに横断しており図幅内の生活路線として欠せない大動脈となっている。この路線から更に分れた県道としては鶯宿温泉に連絡する盛岡鶯宿温泉線が沢内から走り、又南畑を起点として豊沢ダムを經由して花巻市に至る花巻、雫

石線が走っている。盛岡横手線は、湯田町に湯本温泉があり且つ図幅内にも鶯宿温泉があり、県外からの観光保養客も多く利用することから、近次改良舗装が進められ舗装率もほとんど100%になっている。

本図幅の大部分を占める雫石町でも道路の改良舗装について積極的であり、広域営農団地農道整備事業による小岩井農場を起点に網張山ろくを經由し、現在着工中の高倉山スキー場付近を通過し、国道46号線と接続し更に鶯宿温泉線に結び矢巾町南昌山ろくまでの新設事業の他既設の道路も改良工事が進んでいる。

なお、本図幅外雫石町内に国鉄田沢湖線、湯田町内に北上線が走り、両線とも観光面と生活路線に活用されている。

第3図 主要道路図



## イ 人口等の動き

本図幅に関係する市町村の人口動向を見るに40～50年において、増加がみられるのは盛岡市及び花巻市のみで他は軒並み減少している。これを45～50年でみると増加町村が多くなり、なお減少しているのは沢内村と、秋田県の田沢湖町である。

本図幅の主流を占める雫石町及び沢内村について、その内容をみれば雫石町では40～45年では大巾に減少し96.56%約1,000人も減少しており、高度経済成長下の都市流出が激しかったことを裏付けているが、45～50年では微量ではあるが増加の傾向がみられる。増減率101.89%人口は約350人の増であり、社会情勢の変化によるUターン組や盛岡市のベッタウン化事業の活発な取入れ等によるものであろうか。

一方沢内村は、45～50年では82.93%約1,000人45～50年でも92.25%約400人と、減少率は幾分落ちてはいるものの、他町村に比し自然的条件が非常にきびしいことが最大の原因となっていると思われる。

第4表 人口の動き

年次 市町村名	昭和40年	45	50	50/40	50/45	人口密度 (50年)
	人	人	人	%	%	%
雫石町	18,945	17,954	18,293	96.56	101.89	30.1
紫波町	27,449	26,459	26,720	97.34	100.99	112.1
石鳥谷町	16,046	15,920	16,009	99.77	100.56	135.4
沢内村	5,896	5,288	4,878	82.73	92.25	16.9
花巻市	62,710	63,753	65,826	104.97	103.25	171.1
盛岡市	176,967	196,036	216,223	122.18	110.30	542.3
角館町(秋田県)	17,268	16,817	16,869	97.69	100.31	106.9
田沢湖町( " )	15,986	14,924	14,827	92.75	99.35	22.0
合計	341,267	357,151	379,645	111.25	106.30	132.4

資料：昭和45, 50年 国勢調査報告

注：岩手県の人工密度は90.7人

このような状況の中で減少傾向を示しているのが農家人口である。雫石町の40～45年では約1,100人、45～50年では約900人と率は少なくなっているが、減少しており、そのため、機械力に頼る営農が進められているが、それが逆効果となって、減少の道をたどっていることになる。

沢内村は上記雫石町よりも、もっと激しい減少率で40～50年では83.74%、45～50年では92.07%となっており、村全体の減少率もほぼ同じ率である。これは他に産業もなく又事業所官公所等もない、いわゆる純農村地帯の為農家人口即ち総人口の減少率となって表われるのであろう。その為村では、人口の農村離れ対策として、考えられるあらゆる補助制度事業を利用して明るい農村建設を目指した事業を進めており、やがてその成果が表われる日がくるだろう。

第5表 農家人口の動き

年次 市町村名	昭和40年	45	50	50/40	50/45	農家人口 総人口 (50年)
	人	人	人	%	%	人/㎢
雫石町	13,559	12,464	11,542	85.12	92.60	63.10
紫波町	21,339	19,397	18,241	85.48	94.04	68.27
石鳥谷町	11,833	11,070	10,047	84.91	90.76	62.76
沢内村	5,118	4,655	4,286	83.74	92.07	87.86
花巻市	32,788	30,213	27,746	84.62	91.83	42.15
盛岡市	22,521	19,469	16,826	74.71	86.42	7.78
角館町(秋田県)	7,871	7,161	6,703	85.16	93.60	39.74
田沢湖町( )	9,029	8,167	7,651	84.74	93.68	51.60
合計	124,058	112,596	103,042	83.06	91.51	27.14

資料：昭和40、50年は農業センサス。45年は農林業センサス。

### 3 土地利用の概況

関係市町村の耕地率は、全般に低い。最も高いのは石鳥谷町の29%であり、本図幅の大部分を占める雫石町が8%、沢内村にいたっては5%となっている。

このように低い耕地率の町村は、普通畑の所有率が相当低いのが特徴といえる。即ち、雫石町は26%が普通畑で牧草畑は実に72%にも及んでおり、沢内村は普通畑22%、牧草畑が76%となっていることは地形、気象条件のきびしさから畜産指向に変わりつつあるものと考えられる。又林野率の高い市町村なのに、その人工林率は極めて低く盛岡市32%、花巻市、石鳥谷町、紫波町が27~30%と比較的高く、本図幅の大半である雫石町は19%、沢内村も20%と相当低くなっている。自然の草地も多く、雫石町1,588 ha沢内村758 ha紫波町635 haなども大きい。

第6表 土地利用の概要 (ha)

区分 市町村名	土地 総面積 A	経営耕地								
		経営 耕地 総面積 B	田 C	畑					樹園地	
				計	普通畑 計	牧草 牧草地	牧草 専用地	未作 付地		
雫石町	60,801	4,634	3,567	1,044	469	194	559	16	23	
紫波町	23,832	5,410	4,317	694	519	48	125	50	399	
石鳥谷町	11,822	3,396	2,991	275	215	16	40	20	129	
沢内村	28,847	1,343	1,058	285	79	15	202	4	1	
花巻市	38,473	8,047	7,233	672	564	82	66	42	142	
盛岡市	39,872	2,947	1,828	847	657	72	126	64	273	
角館町(秋田県)	15,773	1,775	1,544	221	156	10	54	11	10	
田沢湖町( " )	67,351	2,313	2,091	221	151	5	45	25	1	
計	286,771	29,865	24,629	4,259	2,810	442	1,217	232	978	
区分 市町村名	耕地以外の土地									
	林野 面積 D = E + G	現況 森林 面積 E	森林計 画によ る森林 面積 E'	うち 人工 林 F	森林以 外の草 生地 G	耕地 率 B/A	水田 率 C/B	林野 率 D/A	人工 林率 F/E'	
雫石町	49,594	48,006	48,004	9,232	1,588	7.6	77.0	81.6	19.2	
紫波町	14,303	13,668	13,780	3,787	635	22.7	79.8	60.0	27.5	
石鳥谷町	5,819	5,641	5,639	1,670	178	28.7	88.1	49.2	29.6	
沢内村	23,010	22,252	22,253	4,356	758	4.7	78.8	79.8	19.6	
花巻市	22,996	22,796	22,815	6,229	200	20.9	89.9	59.8	27.3	
盛岡市	30,727	27,425	27,650	8,905	3,302	7.4	62.0	77.1	32.2	
角館町(秋田県)	12,265	11,492	11,495	2,882	773	11.3	87.0	77.8	25.1	
田沢湖町( " )	57,425	53,517	53,369	10,753	3,908	3.4	90.4	85.3	20.1	
合計	216,139	204,798	205,005	47,814	11,342	10.4	82.5	75.4	23.3	

資料：総土地面積は昭和50年，国勢調査報告

耕地は昭和50年農業センサス

林地は昭和45年農林業センサス

注：牧草地とは普通畑のうち過去1年間飼料作物だけを作った畑

：未作付地とは調査日前1年間作付けしなかった畑

### Ⅲ 主要産業の概要

本図葉内関係町村の産業構成をみると、商業都市としての盛岡市及び花巻市、近郊農村型としての雫石町、平地農村型の紫波町、石鳥谷町、山村型の沢内村等種々雑多であるがその中で特徴的な項目を産業別就業人口から推察するに農業依存の大きい町村は、雫石町（50.9%）沢内村（57.7%）であり、これと併行して立地条件から来る林業も雫石町（1.7%）沢内村（5.7%）角館町（1.9%）田沢湖町（5.2%）と比較的大きい数値といえる。

第2次産業で比較的大きいのは製造部門で花巻市が電子工業により16.2%、角館町、田沢湖町が「かば」「こけし」細工によりそれぞれ10.7%、11.2%等がある。紫波町11.3%、石鳥谷町11.1%は工業導入の成果が表われたものとみられる。

これらの傾向は産業別純生産にも表われており、人口構成以上に第3次産業の比重が大きくなっており、第1次産業と第2次産業の不均衡が出ている。1人当りの産業別純生産額をみると第2、3次産業は盛岡市2,786千円、花巻市2,415千円、図幅大部分の雫石町2,317千円、沢内村2,261千円に対し第1次産業は、盛岡市802千円、花巻市990千円、雫石町961千円、沢内村694千円となっており、第1次と第2、3次の格差は非常に大きい。



第7表 産業別就業人口

(単位:人, (内%)

市町村名	産業別 総数	第一次産業			
		計	農業	林業 狩猟業	漁業水産 養殖業
雫石町	(100.0) 10,437	(52.6) 5,489	(50.9) 5,306	(1.7) 180	(0.0) 3
紫波町	(100.0) 15,686	(47.4) 7,438	(47.2) 7,406	(0.2) 25	(0.0) 7
石鳥谷町	(100.0) 9,335	(48.9) 4,565	(48.5) 4,526	(0.4) 35	(0.0) 4
沢内村	(100.0) 2,716	(63.4) 1,723	(57.7) 1,567	(5.7) 156	—
花巻市	(100.0) 35,553	(29.0) 10,338	(28.4) 10,102	(0.6) 223	(0.0) 13
盛岡市	(100.0) 100,838	(5.6) 5,658	(5.3) 5,328	(0.3) 303	(0.0) 27
角館町(秋田県)	(100.0) 8,444	(32.9) 2,785	(31.0) 2,621	(1.9) 162	(0.0) 2
田沢湖町( " )	(100.0) 8,244	(42.3) 3,490	(37.1) 3,059	(5.2) 429	(0.0) 2
合計	(100.0) 191,253	(21.7) 41,486	(20.9) 39,915	(0.8) 1,513	(0.0) 58
県平均	702,574	(34.8) 244,710	(31.2) 219,125	(1.0) 6,843	(2.7) 18,742
市町村名	産業別 計	第二次産業			第三次産業 及びその他
		鉱業	建設業	製造業	
雫石町	(17.2) 1,791	(0.6) 62	(8.6) 893	(8.0) 836	(30.2) 3,157
紫波町	(19.9) 3,125	(0.3) 50	(8.3) 1,297	(11.3) 1,778	(32.7) 5,123
石鳥谷町	(19.7) 1,843	(0.2) 23	(8.4) 787	(11.1) 1,033	(31.4) 2,927
沢内村	(16.8) 457	(0.3) 7	(8.1) 221	(8.4) 229	(19.8) 536
花巻市	(24.3) 8,624	(0.1) 43	(8.0) 2,826	(16.2) 5,755	(46.7) 16,591
盛岡市	(18.8) 18,978	(0.1) 115	(8.6) 8,708	(10.1) 10,155	(75.6) 76,202
角館町(秋田県)	(20.7) 1,744	(0.4) 36	(9.6) 810	(10.7) 898	(46.4) 3,915
田沢湖町( " )	(21.7) 1,790	(0.3) 24	(10.2) 841	(11.2) 925	(36.0) 2,964
合計	(20.0) 38,352	(0.2) 360	(8.6) 16,383	(11.2) 21,609	(58.3) 111,415
県平均	(22.9) 161,128	(0.5) 3,594	(9.4) 65,791	(13.1) 91,743	(42.3) 296,736

資料:50年国勢調査

第8表 産業別純生産

(単位：千円)

産業別 市町村名	総 額	第 一 次 産 業			
		計	農	林 業 狩猟業	漁業水産 養 殖 業
雫石町	(100.0) 16,737,762	(31.5) 5,272,740	(26.9) 4,498,546	(4.2) 704,827	(0.4) 69,367
紫波町	(100.0) 24,665,492	(28.8) 7,108,443	(27.6) 6,802,895	(1.2) 297,090	(0.0) 8,458
石鳥谷町	(100.0) 14,788,711	(29.7) 4,387,058	(28.8) 4,255,059	(0.9) 126,080	(0.0) 5,919
沢内村	(100.0) 3,491,003	(34.3) 1,196,100	(29.2) 1,017,993	(5.0) 174,597	(0.1) 3,510
花巻市	(100.0) 71,044,856	(14.4) 10,244,423	(13.9) 9,892,996	(0.5) 344,049	(0.0) 7,378
盛岡市	(100.0) 269,743,360	(1.7) 4,539,849	(1.5) 4,125,197	(0.2) 409,698	(0.0) 4,954
合 計	(100.0) 400,471,184	(8.2) 32,748,613	(7.6) 30,592,686	(0.5) 2,056,341	(0.1) 99,586
県平均	(100.0) 1,279,085,876	(15.9) 202,686,928	(11.9) 151,271,468	(1.3) 16,318,548	(2.7) 35,096,548
産業別 市町村名	第 二 次 産 業	第 三 次 産 業			
雫石町	(32.1) 5,379,956	(36.4) 6,085,066			
紫波町	(31.2) 7,702,027	(39.9) 9,855,022			
石鳥谷町	(32.9) 4,870,647	(37.4) 5,531,006			
沢内村	(27.1) 945,089	(38.7) 1,349,814			
花巻市	(26.9) 19,083,077	(58.7) 41,717,356			
盛岡市	(15.4) 41,474,243	(82.9) 223,729,268			
合 計	(19.8) 79,455,039	(72.0) 288,267,532			
県平均	(26.2) 335,615,708	(57.9) 740,783,240			

資料：昭和50年度岩手県の市町村民所得  
秋田県分は調査不能

農業のみの構成比等についてみるに耕種が圧倒的に多くなっており、とりわけ米は盛岡市を除きいずれの市町村も、県平均を上廻っている。又広大な土地がありながら畜産は県平均 29.1%よりいずれも低い。雫石町 18.6%沢内村ではわずかに9.4%である。

第9表 農業粗生産額 (単位：百万円)

種別	雫石町		紫波町		石鳥谷町		沢内村		花巻市	
	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比
耕種計	5,360	81.4	8,211	75.3	5,376	87.2	1,274	90.6	12,015	81.0
うち米	4,554	69.1	5,807	53.2	4,345	70.4	1,212	86.2	10,445	70.4
麦類	0	0.0	3	0.0	0	0.0	—	—	0	0.0
雑穀豆類	17	0.3	48	0.4	12	0.2	9	0.6	29	0.2
イモ類	25	0.4	28	0.3	24	0.4	5	0.4	50	0.3
野菜	369	5.6	776	7.1	534	8.7	40	2.8	851	5.7
果実	55	0.8	1,131	10.4	248	4.0	1	0.1	337	2.3
花き	13	0.2	7	0.1	—	—	—	—	9	0.1
工芸作物	67	1.0	318	2.9	145	2.4	—	—	238	1.6
種苗・苗木類	266	4.0	93	0.9	68	1.1	7	0.5	56	0.4
養蚕	—	—	3	0.0	15	0.2	—	—	4	0.0
畜産計	1,221	18.6	2,696	24.7	774	12.6	132	9.4	2,823	19.0
うち肉用牛	426	6.5	344	3.2	84	1.4	27	1.9	176	1.2
乳用牛	564	8.6	160	1.5	49	0.8	61	4.4	482	3.2
豚	104	1.6	1,772	16.2	555	9.0	37	2.6	1,728	11.7
鶏	127	1.9	420	3.8	82	1.3	6	0.4	434	2.9
その他	0	0.0	—	—	4	0.1	1	0.1	3	0.0
加工農作物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	6,587	100.0	10,910	100.0	6,165	100.0	1,406	100.0	14,842	100.0

(単位：百万円)

種 別	市 町 村 名		盛 岡 市		角 館 町		田 沢 湖 町		岩 手 県	
	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比	粗生産額	構成比		
耕 種 計	4,655	80.2	2,673	90.0	3,044	85.5	175,353	70.3		
うち米	2,501	43.2	2,304	77.6	2,844	79.9	122,906	49.3		
麦類	1	0.0	—	—	—	—	469	0.2		
雑穀豆類	30	0.5	12	0.4	22	0.6	2,106	0.8		
イモ類	37	0.6	11	0.4	13	0.4	1,921	0.8		
野菜	999	17.2	235	7.9	127	3.6	19,449	7.8		
果実	779	13.4	6	0.2	4	0.1	7,739	3.1		
花き	65	1.1	1	0.0	2	0.0	197	0.1		
工芸作物	29	0.5	103	3.5	31	0.9	18,567	7.4		
種苗・苗木類	214	3.7	1	0.0	1	0.0	1,999	0.8		
養 蚕	2	0.0	0	0.0	—	—	1,583	0.6		
畜 産 計	1,150	19.8	297	10.0	515	14.5	72,461	29.1		
うち肉用牛	86	1.5	87	2.9	118	3.3	8,039	3.2		
乳用牛	276	4.8	59	2.0	48	1.4	16,810	6.8		
豚	660	11.3	127	4.3	143	4.0	24,764	9.9		
鶏	121	2.1	22	0.7	198	5.6	22,742	9.1		
その他	7	0.1	2	0.1	8	0.2	106	0.1		
加工農作物	—	—	—	—	—	—	22	0.0		
合 計	5,807	100.0	2,970	100.0	3,559	100.0	249,419	100.0		

資料：昭和50年生産農業所得

#### IV 開発の現状と方向

本図葉関係市町村のうち、大部分を占める雫石町と沢内村を主体に記述してみたい。雫石町は県庁所在地である盛岡市のいわゆる近郊農村型であり、盛岡市の衰勢に大いに影響を受けるが、その盛岡市は近年発展を続け、人口も22万人を越えており、東北縦貫自動車道が53年全面開通し、更に東北新幹線も56年3月開通を目指しており、北東北の流通、観光、学術の拠点都市としての役割が大きく、又鉄工団地、木工団地等の建設が進んでいることから、30万都市となることも近いだろう。

雫石町としてもそれらに対応すべく諸施策を講じている。先ず食糧（酪農、肉牛及び米）の安定供給を目指して農業基盤事業に力を入れており、年間10億円以上の政府制度資金が導入され、ほ場整備、用排水改良、防災ダム及び農地造成、草地造成、共同施設整備等実施している。これらを基幹施設とし、滝の土地熱発電の熱水を利用した野菜の栽培、魚の養殖などの検討、研究が進められている。

観光、保養、レクリエーション基地としての構想実現にも力を入れている。既存の施設としては、小岩井農場、網張国民休暇村、滝の土地熱発電、温泉群としては鶯宿、網張、滝の上、国見、玄武、スキー場は全国的に知名度が高くなってきている網張を始めとして東カン、鶯宿があり、毎シーズン県外から訪ずれる人も多くなっているが更に東洋一の規模になるといわれるスキー場が高倉山に建設中である。ここは夏はゴルフ場に利用する計画であり、これら施設への食糧、労力の供給等波及効果は大きい。又林業についても人工林道整備等、積極的に進められている。

これら事業が完成した時、小岩井有料道路広域農道等各観光レクリエーションを結び、その間に牛の放牧、人工美林、ハウス園芸、整備された水田等が岩手山ろくに広がる姿は正に一幅の風景画を見る如くとなり一大理想郷と呼ばれることも間近いことだろう。

沢内村は、雫石町に比べ地形、地理、気象共相当きびしい条件にある。このことは1次産業の1人当り生産額にも如実に表われ雫石町の約 $\frac{1}{2}$ 程度となっている。このことから町村当局としても、どのようにしたら、生活の安定と向上をはかることができるか懸命に取り組んでいる。即ち、谷間に点在する農家の低地集落への移転、農村総合開発センター建設、少ない面積の中での水田ほ場整備、農免農道等道路網の整備、更には村全体を占める山林の人工造林、山菜、きのこ等山間地特産物の加工センターの

設置と販路拡大，成果は着々と実りつつある。しかしながら他町村に比べその格差は未だ縮まっていない。村としても豊かな農村作りのための模索を続けているところであるが，その内容は村全体の80%を占める山林の活用が柱になることは必至である。草地を造成しての酪農もその一例であろうが，その実績は意外に少なく52年度まで324 haと雫石町の1,262 haの約1/4程度とはどうしたことか。地形，気象条件のきびしい奥羽山系の開発についても最近ようやく目が向けられ，調査計画が具体化しつつあることから，大規模プロジェクトによる開発が進められることになれば都会では味わうことのできない良さが認識されるような村づくりが出来ることであろう。

第10表 草地造成年度別実績

(単位：ha)

年度 市町村名	48年度	49	50	51	52	計
雫石町	1,097.3	36.1	49.1	52.4	27.6	1,262.5
沢内村	201.1	42.6	50.6	30.0	0	324.3

資料：畜産課調査

# 各 論

## I 地形分類

### 1 地形概説

本図葉の地形を概観すると、切峰面図でも明瞭なように和賀川と鶯宿川を結ぶ線を境として、東部と西部で山地の高さが大きく異なる。

西部は和賀岳を中心とする1,000 m以上の山地が広がり、東部は1,000 m以下の山地が広がっている。図葉北東隅には雫石盆地の南部が含まれ、図葉南西部には貝沢野盆地がある。

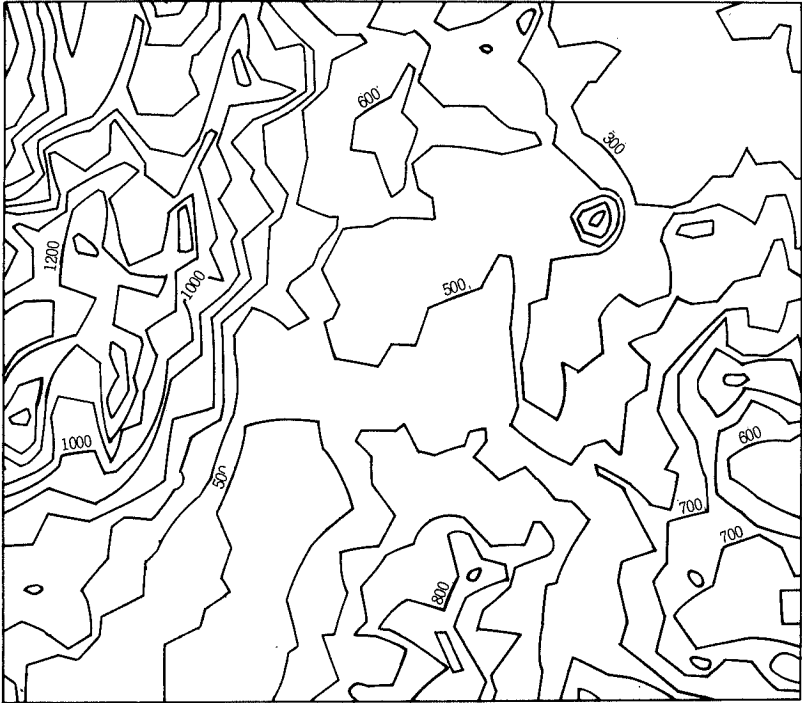
本調査地域を流れる主な河川は、和賀川の上流部、雫石川の支流である志戸前川、鶯宿川、南畑川、外舛沢川等があり、秋田県側では、玉川の支流である生保内川の上流部とその支流であるシトナイ川が図葉北西隅にみられる。

本図葉内での最高点は和賀岳の1,440 mである。図葉の大部分は山地で占められており、丘陵地、台地、低地等の面積は少ない。

本図葉中の山地では地すべり地は少なく、また個々の規模も小さい。ただし、図葉北西部の和賀岳山地は小崩壊が目立っている。



第1図 「鶯宿」切峰面図



## 2 地形各論

### (1) 山地

本図葉内の山地を地形、及び地質等の観点から地形区分すると、図葉北西部の最も高い山地である和賀岳山地、その南に続く真屋山地、志戸前川と鶯宿川に挟まれた町名森山地、雫石盆地の南に接して男助山地、図葉東南部の比較的高さのそろっている和賀山地、駒頭山地、台山地、諸倉山地、須賀倉山地等に区分できる（地形区分図）。

和賀岳山地は本図葉内では最も標高が高く、最高点の和賀岳の海拔 1,440 m をはじめとして、朝日岳 1,375 m、高下岳 1,323 m、モッコ岳 1,278 m、五番森 1,048 m と 1,000 m 以上の諸峰が連座している。起伏量は大きく、谷密度も比較的大きい方である。ただし、わずかに五番森周辺で谷密度の小さい所がある。構成地質は安山岩質であり、図葉北部に花崗岩が現われてくる。本山地では地すべり地形は若干みられるが

規模はそれ程大きくはない。しかし小崩壊は比較的多い。浸食が進んでいるため、顕著な緩斜面はみられない。

真昼山地は和賀岳山地の南に続き、岩手、秋田の県境を形成している。真昼山地の主峰は真昼岳であり、「新町」図葉の西隣図「六郷」図葉に含まれている。真昼山地は和賀岳の南から南方に伸び、はるか南の栗駒山にまで達している、かなり長大な山地である。途中焼石岳山地によって北部と南部に分かれ、北部は真昼岳の海拔 1,060 m を除けばほとんど 1,000 m 以下であるが、南部では 1,100 m 前後の諸峰が連なっている。本調査地域に含まれる真昼山地は 700 m～800 m 位であり、楷倉山（792 m）、高平山（729 m）等が主な山である。主として流紋岩から成り、東縁部に一部新第三紀の砂岩が分布する。起伏量は中程度であるが、谷密度は若干大きめである。特に砂岩から成る吹沢山（545 m）付近は起伏量が小さく、一部地形分類図では丘陵地Ⅰで表現した所もあるが、この砂岩分布域の谷密度はかなり高い値を示している。

和賀岳山地、真昼山地とも、その東縁は本調査地域ではかなり直線的であり、構造運動の影響を受けていると思われる。

町名森山地は志戸前川と鶯宿川にはさまれ、標高、起伏量共に低い。主な山は方丈山（682 m）、町名森（689 m）、大小屋山（641 m）等であり、比較的定高性がある。切峰面図でも分るように鶯宿川に沿っての山地と、貝沢野盆地を結んだ地域は本図葉中の凹地帯を形成している。従って町名森山地も起伏量は中～小起伏である。谷密度は中程度であるが、志戸前川流域の方は谷密度はかなり低い。

構成地質は安山岩、流紋岩、凝灰岩（グリーン・タフ）等が分布し、かなり複雑な地域である。

男助山山地は雫石盆地の南に接する小範囲の山地であるが、男助山（758 m）、女助山（610 m）の 2 つの山が独立峰的に並んでおり、その間に南畑川が流れており、南畑川の下流から上流方向をながめると、あたかも門構えを形成している観を呈している。この 2 つの山を除く同山地は起伏量の小さな、標高も 500 m～600 m と低い山地である。ほぼ全域流紋岩から成る。和賀山地は南から伸びてきて、本図葉内で終る。安山岩と凝灰岩（グリーン・タフ）から成る山地であり、起伏量は中～若干大きめである。谷密度も中程度か、若干大きめであるが、心もち安山岩の方が谷密度が小さい。

標高は南縁の焼石岳山地に達するまで、800 m～900 m 前後とかなり定高性がある。この山地の西縁には一段標高の低い小倉山山地が和賀川との間に帯状に分布している。

この和賀山地の西縁、及び諸倉山山地の西縁（和賀川）は共に直線的であり、貝沢野盆地の東縁とも一致していることなどから断層運動等の結果とも考えられるが、地質学的には明らかにされていない。

駒頭山山地、台山山地、及び諸倉山山地は共に安山岩から成り、地形的にも比較的似ている。起伏量は駒頭山山地の一部に小起伏山地が分布する他は概して中程度を示している。

谷密度はかなり高い方である。細かく枝分れした樹枝状水系が発達している。前記した和賀山地、後に述べる須賀倉山地と地質的には安山岩で同質であるが、本山地地域の安山岩が時代的に比較的新しいということが、水系谷密度に差を生じている原因と思われる。標高は700～800m位で、主な山は権現森776m、諸倉山714m、塚瀬森892m、台山681m、青木森831m、高狸山830m等である。

須賀倉山山地は和賀山地と同質の安山岩からなり、和賀山地と同様に谷密度は若干小さい。標高も須賀倉山が941mで和賀山地に似ている。

## (2) 丘陵、台地

本調査地域に分布する丘陵地は範囲がせまく、雫石盆地の南西～南縁部に山地との間に分布しているだけである。これらの丘陵地は起伏量が小さく、恐らく段丘起源のものであろう。丘陵地Ⅰで表示したところは、地質的には周辺山地の延長であるが、断層運動で山地と分けられたものであろう。丘陵地Ⅱで表わした所は起伏量は極めて小さく、火山灰の堆積している地形面であり、その形態からみて、段丘として形成されたのが、その後の浸食によって丘陵地化したものである。雫石盆地は河岸段丘がよく発達しており、上下2段の段丘が各河川によって形成されている。段丘は両者とも新鮮な形で残っており、段丘崖は明瞭である。上下の段丘共に連続性は良いが、特に下位の段丘は連続性が良く、南畑川、鶯宿川、戸沢川、九十九沢、矢櫃川に沿って上流部にまで発達している。ただしわずかに鶯宿川、南畑川、外舩沢川の合流点付近では上位と下位の段丘に明瞭な比高差が認められない所もある。

貝沢野盆地は真昼山地、和賀岳山地、及び和賀山地に挟まれた盆地であり、その形態から断層盆地と考えられる。盆地の西縁には地質学的に断層線が推定されているが、東縁部には断層線が認められていない。しかし東縁は西縁以上に山地との境界線が明瞭であり、和賀川の直線的流路と一致する他、北部に於てはその延長に推定断層が認められている。

この盆地内にはかなり広い、平坦な下位段丘があり、和賀川の中位段丘（砂礫段丘Ⅱ）に連続する可能性があるが、本図葉内では、氾濫平野との比高がかなり小さいので下位段丘（砂礫段丘Ⅲ）として表現した。この段丘上には和賀岳山地からの扇状地が新しく形成されているが、砂礫段丘Ⅲも荒沢川を中心とした背後の谷からの扇状地として形成されたものである。また荒沢川右岸に見られる砂礫段丘も古い扇状地の名残りである。

### (3) 低地

本調査地域にみられる低地は全て狭長な谷底平野のみである。全体に幅は狭く、発達が悪い。わずかに和賀川の支流である横川の谷底平野が比較的幅広く形成されているだけである。

## 3 地形分類、地形区分について

本調査作業における地形分類に関しては、その利用目的を土地利用計画、環境保全、防災等に重点を置いて作成した。作業の方法としては国土地理院で撮影した空中写真で判読を行ない、予察作業を行なった後、現地調査で補足した結果を合せて最終的に分類図を作成した。山地の分類に際しては、起伏量区分の結果のみならず、水系谷密度図、傾斜区分図等の結果をも総合して分類してある。

地形区分図は、作成された地形分類図をもとに、地形的、および地質的にみて等質と考えられる地域に再編集したものである。このような作業に先立って切峰面図も作成して利用したが、切峰面図はある程度の広さの地域の地形の概略を観る意味では極めて有効な資料となる。 (株式会社 地域開発コンサルタンツ 石野公一)

## 参 考 文 献

- 岩 手 県 (1954, 56) 岩手県地質図及び同説明書ⅡⅢ, 10万分の1図
- 秋 田 県 (1965) 秋田県地質鉱産図, 20万分の1図
- 平 凡 社 (1970) 地学事典
- 経済企画庁 (1972) 土地分類調査「秋田県」
- 経済企画庁 (1973) 土地分類基本調査「零石」
- 経済企画庁 (1974) 土地分類調査「岩手県」
- 岩 手 県 (1974) 土地分類基本調査「日諸」
- 岩 手 県 (1975)           "           「花巻」
- 岩 手 県 (1979)           "           「新町」

## Ⅱ 表層地質

### 1 表層地質概説

本図幅地域の基盤岩は花崗岩類で西側の秋田県境付近の山地を形成している。花崗岩類の貫入後いわゆるグリーン・タフ活動による大量の火山物質が供給され図幅全域に広く分布するようになる。グリーン・タフ活動後、南北性およびこれより派生する東西性の断層運動により、図幅北東部の半円状の盆地や、北川舟付近での扇状地の形成がもたらされることとなる。

新期火山岩類は、図幅北東部に火山碎屑物が南東部や南西部には安山岩質岩石がそれぞれ分布している。

表層の堆積物は、図幅北東部に沖積層や洪積段丘堆積物が河谷沿いに比較的広く分布しているほか、北川舟付近では山の中はかなり大規模な扇状地の堆積物が分布している。花崗岩類や火山岩類の分布するところには多くの崖錐堆積物が分布している。

新第三系は激しい構造運動の反映として多くの断層群に切られると同時に褶曲構造も多くみられる。褶曲軸は全体の構造と一致した南北性のものが多いが、方丈山の東方では北に傾いた半ドーム状構造があり、鶯宿東方では東西方向に軸をもつ背斜構造があつていずれも、南北性の主構造より派生した東西性の構造とみられる。

第1表 「鶯宿」図幅層序区分表

地質時代		地層(岩層)名	岩石の種類	固結の状態	
新 生 代	第 四 紀	沖積世	現河床堆積物 崖錐堆積物 扇状地・段丘堆積物	未固結	
		洪積世	新期火山岩類 扇状地・段丘堆積物		火山碎屑物 砂・礫・泥
	新 第 三 紀		中新世	新期火山岩類	安山岩質岩石 流紋岩質岩石
		橋場層		石英安山岩	
		湯口層・花山層		石英安山岩・凝灰岩・砂岩・礫質砂岩	
		男助層		石英粗面岩質粗粒凝灰岩 硬質頁岩	
		坂本層		硬質頁岩	
		国見層・大石層・切留層		角礫凝灰岩・粗粒凝灰岩 凝灰質頁岩	
		生保内層・大荒沢層		角礫凝灰岩・集塊凝灰岩 変朽安山岩	
	先第三紀	花崗岩類	花崗岩質岩石		

## 2 表層地質各論

## (1) 未固結堆積物

ア 砂 礫 g<sub>1</sub>

本図幅内に分布する沖積層は、志戸前川、赤沢川、鶯宿川、南畑川、戸沢川、豊沢川、高下川といった谷底平野や沖積段丘堆積物のほかに大荒沢川や谷地川によって出

来た扇状地堆積物からなる。

堆積物は供給地から比較的近いことなどにより粗粒なものが多い。柱状図④でみられるように花崗岩の巨礫によって谷底がおおわれていたり、柱状図⑤のような扇状地堆積物も巨礫が多いが柱状図⑥でみられるように一部で泥質な部分もある。

礫は火山岩類、花崗岩類のものが多く大きなものは1 m以上もあるが一般には卵大から、こぶし大の大きさで 角礫程度のものが多い。

#### イ 碎屑物 cl

崖錐等の分布は図上では花崗岩類や火山岩類の分布するところに数箇所、示されているがこれは規模の大きなもので、小規模なものは無数にみられる。崖錐の発生で大きなものは谷の合付付近にみられるが小規模なものは新しく出来た道路の法面などに多くみられる。

#### ウ 砂 礫 g<sub>2</sub>

洪積段丘は図幅東北部と、大荒沢川付近にみられる。

段丘堆積物は、多くは火山岩類に由来した砂礫で、礫はこぶし大のものが多く亜角礫ないし亜円礫である。段丘面は流域によって河床面からの比高に差がみられる。東北部では火山碎屑物の分布域と段丘との境界はあまり明瞭でない部分がある。

### (2) 固結堆積物

#### ア 砂 岩 ss

本層は、花山層と呼ばれる地層で、石英安山岩質凝灰岩と軟弱砂岩及び礫質砂岩とからなる岩相で全体的に凝灰質な岩石からなる。本層は全体に軟らかなために地形的にもゆるやかで丘陵地に近い山地を形成し、他の第三系とは山容をやや異にしている。

#### イ 泥 岩 ms

本岩は坂本層の岩石という。坂本層は赤沢川や田沢湖線の南東方に分布する硬質頁岩層である。本岩は一般的に黒色板状の頁岩で女川頁岩層と呼ばれる油層を含むものと同一のものである。

本岩は硬質であるが板状にこわれやすく小規模な落石崩壊をおこしやすい。

### (3) 火山性岩石

#### ア 火山碎屑物 py

図幅東北部の台地にみられる火山碎屑物は岩手山の火山活動によってもたらされたものとみられる。火山碎屑物は表土によって覆われた風化火山灰質なものである。

### イ 安山岩質岩石 $Ab_1$ , $Ab_2$

$Ab_1$  は、第四紀、 $Ab_2$  は第三紀の安山岩質岩石である。

$Ab_1$  は、駒ヶ岳及び岩手山火山岩類と呼ばれる。岩質は高狸山付近のものは安山岩質であるが、青ノ木森周辺や他のものはいずれも石英安山岩質で石英の大きな斑晶を含む。岩石は一般に硬いが凝灰質な部分も多くあって風化が進んで崩れやすい部分も峰越峠付近などに多くみられる。

$Ab_2$  は、生保内層、大荒沢層、湯口層に相当する岩石で、生保内層、大荒沢層は鶯宿から青ノ木森付近へ延びる断層よりも西側に分布する角礫凝灰岩、集塊凝灰岩、変朽安山岩等よりなる。湯口層は、石英安山岩質集塊岩、浮石凝灰岩をはさむ凝灰質な砂岩、頁岩よりなる。

$Ab_2$  は、グリーン・タフの中心的な岩石で硬質で急峻な山地を形成している。

### ウ 流紋岩質岩石 $Ry_1$ , $Ry_2$

$Ry_1$  は、新期火山岩の石英粗面岩とみられるものもあるが周囲の地層との関係からみて大部分は大石層の層準に相当すると思われる。本岩は淡青緑色の石英粗面岩質凝灰岩、角礫凝灰岩、熔岩流よりなる。とくに熔岩流は、六角柱状の見事な柱状節理をみせている。一般に岩石は硬く落石の発生が多くみられる。

$Ry_2$  は、男助層の硬質頁岩を伴う石英粗面岩および石英粗面岩質凝灰岩で、男助山、女助山のようにこんもりとした山を作っている。

### エ 凝灰質岩石 $Tf$

$Tf$  は、国見層、大石層、切留層に相当する。国見層は方丈山付近より北側、大石層は横川の扇状地より西側、切留層はのこりの東南部に分布する地層で、角礫凝灰岩、粗粒凝灰岩、凝灰質頁岩などからなり、 $Ab_2$  とともに、グリーン・タフの中心的な岩石である。 $Tf$  は  $Ry$  や  $Ab$  に比べるとやや軟らかいが一般に硬い岩石である。

## (4) 深成岩類

### ア 花崗岩質岩石 $Gr$

花崗岩質岩石は図幅の西半部に分布する。岩相は黒雲母花崗閃緑岩、閃雲母花崗閃緑岩で、貫入の時期は第三紀以前で恐らく中生代白亜紀であろうとみられる。本岩は硬い岩片であるがマサ化の進行によって崩壊の発生もみられるし、侵食もされやすい。



### 3 応用地質

鶯宿温泉は単純硫化水素泉で、温度は58～62°C、PH 7.9で胃腸病、神経痛、リュウマチ等に効果がある。

火山性岩石の分布が広いために落石、崩壊等の山地災害の発生頻度が高い地域となっている。

(株式会社 地域開発コンサルタント 目加田 義正)

#### 参 考 文 献

- 岩 手 県 (1954, 56) 岩手県地質図及び同説明書I) (II), 10万分の1図  
秋 田 県 (1965) 秋田県地質鉱産図, 20万分の1図  
平 凡 社 (1970) 地学事典  
経済企画庁 (1972) 土地分類調査「秋田県」  
経済企画庁 (1973) 土地分類基本調査「雫石」  
経済企画庁 (1974) 土地分類調査「岩手県」  
岩 手 県 (1974) 土地分類基本調査「日詰」  
岩 手 県 (1975)           "           「花巻」  
岩 手 県 (1979)           "           「新町」

### Ⅲ 土 壤

#### 1 山地及び丘陵地の土壤

本図葉に出現する土壤は、断面形態や母材、堆積様式、水湿状態などの相違によって、**9土壤群**、**15土壤統群**、**25土壤統**に区分された。

次表は、これらの出現地や断面の特徴、林野土壤との対比を示したものである。なお、岩石地と人工改変土壤は、特に統の設定を行わなかった。

本図葉の基盤となっている土壤は、**褐色森林土**であり、傾斜のゆるやかな丘陵地は**黒色土**、反対に急峻な地形のところは**岩屑土**となっている。また、標高700 m以上のところは**ポドソル**となっているが、低標高地でも植生の影響により、**ポドソル**となっているところもある。

更に、このような地形による大きな区分に加えて、母材の相違により、**花崗岩母材の砂質な土壤**と**凝灰岩を主体とした粘質な土壤**とに大きく区分される。

(林業試験場東北支場 丸山明雄 岩手県林業試験場 金田宜昭 外館聖八朗)

第2表 土 壤

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統	統記号
岩 石 地	岩 石 地		
岩 屑 土	岩 屑 性 土 壤	大平沢統	Ohz
		志戸前沢統	Stn
未 熟 土	人 工 改 変 未 熟 土 壤		
黒 ボ ク 土	黒 ボ ク 土 壤	志 和 統	SWa
		山 王 海 統	Sno
褐 色 森 林 土	乾 性 褐 色 森 林 土 壤	東 根 山 統	Ane
		屋敷沢1統	Ysz-1
		河 舞 統	Kma
	乾性褐色森林土壌 (赤褐色)	男 助 山 統	OsK
	褐 色 森 林 土 壤	南 昌 山 統	Nan
		屋敷沢2統	Ysz-2
		七 内 川 統	Sta
		鶯 宿 川 統	OsK
	褐 色 森 林 土 壤 (暗 色 系)	八 方 山 統	HaP
		シトナイ統	Stn

## 統 群 分 類

主な出現地と断面の特徴	林野土壌との対比
	岩石地
主として図葉北西部に出現し、花崗岩を母材、柱状図は雫石図幅参照	Im, Er 岩石地
主として図葉北西部に出現し、第三系頁岩、凝灰岩を母材	Im, Er 岩石地
人工により表層をとり去った土壌（スキー場、ゴルフ場）	Er
図葉北東部の丘陵地に分布。A層は軟らかく、下層は半角礫、ないし円礫を混入し、ややち密、雫石図幅一網張2統、網張3統に相当	B1D, B1E
図葉北東部の丘陵地の凸部に出現。表層は薄く、下層は非常にち密。	B1D(d) B1B
図葉全域の標高600m以下の尾根部に出現。安山岩、流紋岩、凝灰岩を母材とする土壌。埴質壤土。雫石図幅一相沢山1統に相当	BA, BB, BD(d)の 一部
図葉北西縁に小面積出現。第三系頁岩・凝灰岩を母材。埴質壤土～埴土。断面全体がち密。代表断面の位置は角館図葉内	BD(d), BD(d)― Im
図葉北西縁に小面積出現。花崗岩を母材。砂質壤土。柱状図は雫石図幅参照	BD(d)
男助山南西部の尾根に出現。A層は薄く、下層は重粘でち密	rBA,rBB
図葉西縁部及び北東部を除く地域の斜面に分布。安山岩、流紋岩、凝灰岩を母材。壤土～埴質壤土。雫石図幅一相沢山2統、大坪沢山1統の一部に相当	BD BD(d)
屋敷沢1統出現地域の沢筋に出現する。崩積型土壌。第三系頁岩。凝灰岩を母材。埴質壤土～埴土。断面全体がち密。代表断面の位置は角館図葉内	BD, BD ― Im
南昌山統の表層の移動している土壌	BD―Er, ED(d)― Er
鶯宿ダム上流の沖積地に出現し、下層が砂質の洪涵地土的性格を有する土壌	BD, BD ―Fd
標高600～800mの斜面上部から尾根部に出現。南昌山統の上部に出現。雫石図幅一石黒山統に相当	dBD dB(d)
標高600～800mの斜面上部から尾根部に出現。花崗岩を母材。砂質壤土。柱状図は雫石図幅参照	dBD dB(d)

褐色森林土	湿性褐色森林土壌	東の股沢統	Hma
草原土	高山草原土壌	和賀岳統	Wgd
ポドソル	山岳ポドソル土壌	朝日岳統	Ahd
	乾性ポドソル化土壌	モッコ岳統	MoK
		生保内川統	Obg
		方丈山統	Hjs
	湿性ポドソル化土壌	荒沢森統	Arm
		大荒沢岳統	Oas
乳頭山1統		Nts-1	
褐色低地土	粗粒褐色低地土壌	幕館統	MKd
グライ土	グライ土壌	貝沢統	Kas

南昌山統の、沢筋にあらわれる崩積型土壌，礫質な断面で，粗に堆積。 雫石図幅一大坪沢山2統に相当	BE
和賀岳周辺の緩斜尾根部に出現	Pw(h)I
標高1,200 m以上の狭長尾根に出現，断面は砂質	PDI
標高600～800 m以上の尾根部に出現，安山岩，流紋岩，凝灰岩を母材 壤土～埴質壤土	PD III
主として図葉北西部に出現，花崗岩を母材とする砂質のPD III 型土壌	PD III
標高400～700 mの狭長な尾根部に出現，ヒバ，ネズコ，天然スギの植 生の影響による土壌，明白な溶脱層を有する。	PD II
南昌山統，八方山統上部の緩斜面上部から尾根部に出現，B層に腐植の 集積，埴質壤土，雫石図幅一乳頭山2統，日詰図幅一須賀倉山統に相当	Pw(h) III
花崗岩を母材とするPw(h) III，砂質壤土	Pw(h) III
標高1,200 m以上の緩凹地に小面積出現，泥炭層を厚く堆積・鉄の集積 が認められる。	Pp
	Fd
沢内村貝沢地区の沖積地の緩凹地に出現，断面はち密でグライ層を有す る	G

#### 参 考 文 献

- 林野庁青森営林局：青森営林局土壌調査報告書（北上川上流経営計画区）（昭40）
- 林野庁青森営林局：青森営林局土壌調査報告書（北上川中流経営計画区）
- 岩手県農地林務部：民有林適地適木調査（北上川上流区域）（昭45）
- 岩手県農地林務部：民有林適地適木調査（北上川中流区域）（昭52）

## 2 台地および低地の土壌

鶯宿図幅中には、秋田県田沢湖畔・角館町に隣接する雫石町・沢内村を中心に紫波町・石鳥谷町・花巻市が含まれる。しかし、図幅中の耕地は、雫石町と沢内村にだけ分布する。

地形は、図幅の中心部から、北～北東へ鶯宿川・南畑川・戸沢川等の雫石川支流が、また南へ和賀川支流の横川および横川に注ぎ込む小河川が走っている。耕地は、これらの河川の沖積地を中心に、それらに隣接する形で台地上に広がっている。

以上のような状況のもとに、本図幅中に分布する土壌は、8土壌統群・20土壌統に区分される。

黒ボク土壌統群には、伊原統・細野統・好地統・蔭沼統の4土壌統が含まれる。伊原統は、表層多腐植壤粘質の火山灰、下層壤粘質の洪積土で火山灰を混入する。雫石町の南畑・深沢・旭台付近に分布する。細野統は、表層多腐植強粘質、下層も強粘質で砂礫層を有する崩積土である。雫石町戸沢付近に小面積分布する。好地統は、表層多腐植強粘質で、下層も強粘質の洪積土である。主に、沢内村北川舟付近に点在する。蔭沼統は、表層多腐植強粘質で、下層壤粘質の洪積土である。沢内村貝沢野付近にまとまって広く分布している。

多湿黒ボク土壌統群には、飯豊統・滝沢統・飯岡統・籬野統が含まれる。飯豊統は、表層のみ腐植質火山灰土であり、下層粘質の黒ボク土である。雫石町の南畑川・鶯宿川および沢内村の長橋川・谷地川・横川流域に分布し、図幅中最も広範に分布する土壌統である。滝沢統は、全層腐植質火山灰で壤質の台地土である。雫石籬野付近に分布する。飯岡統は、全層腐植質火山灰で粘質の台地土である。雫石町の南畑川と鶯宿川の合流点付近に分布する。籬野統は、表層だけが腐植質火山灰で、下層黄褐色強粘質の台地土である。

雫石町の外舩川に沿って広く分布する。

粗粒多湿黒ボク土壌統群は、宮守統・和井内統の2土壌統よりなる。宮守統は、表層のみ腐植質火山灰土で、下層に砂礫層を有する粘質の台地土である。雫石町鶯宿・舩沢・片子沢・旭台および新平付近に広く分布する。和井内統は、表層腐植質で浅く、下層に砂礫層を有する壤粘質台地土である。雫石町の南畑川中流域桑原付近にのみ分布する。

淡色黒ボク土壌統群は、笹野田統のみからなる。笹野田統は、表層多腐植強粘質、

下層強粘質の残積土である。雫石町の南畑川中流および戸沢川中流付近の台地上に点在する。

黄色土壌統群には、畑である月館統・上場統・矢櫃統・上左草統および水田の戸沢統・内沢統の計6土壌統よりなる。月館統は、全層腐植に乏しい強粘質の残積土である。雫石町の外舛沢川に沿って点在する。上場統は、表層腐植に乏しい壤粘質土で、下層に礫層を有する残積土である。紫波町と雫石町の境の山間傾斜地にのみ分布する。矢櫃統は、表層多腐植強粘質、次層腐植の乏しい強粘質土で下層に礫層を有する残積土である。矢櫃川と戸沢川にはさまれて分布する。上左草統は、表層多腐植質強粘質土、次層腐植の乏しい強粘質土で、下層に礫層を有する洪積土である。沢内村の横川および小荒沢川沿いに小面積で点在する。戸沢統は、表層腐植質強粘質の台地土である。雫石町の外舛沢川・戸沢川および矢櫃川にはさまれた地帯に広く分布する。内沢統は、表層のみ腐植質で、下層に砂礫層を有する台地土である。沢内村の小荒沢川沿いに小面積分布する。

細粒灰色低地土壌統群には、白山統だけが入る。白山統は、腐植に乏しい強粘質の台地土である。雫石町深沢および片子沢付近に分布する。

粗粒灰色低地土壌統群には、沢内太田統が入る。沢内太田統は、全層灰褐色で下層に砂礫層を有する粘質低地土である。主に、雫石町の鶯宿川および尻合川流域に分布する。

粗粒グライ土壌統群には、大堰川統のみが入る。大堰川統は、表層灰色系で次層がグライ層となり下層に砂礫層を有する壤質低地土である。雫石町田ノ沢付近の川沿いに小面積分布する。

(岩手県立農業試験場 宮下慶一郎)



## IV 傾斜区分

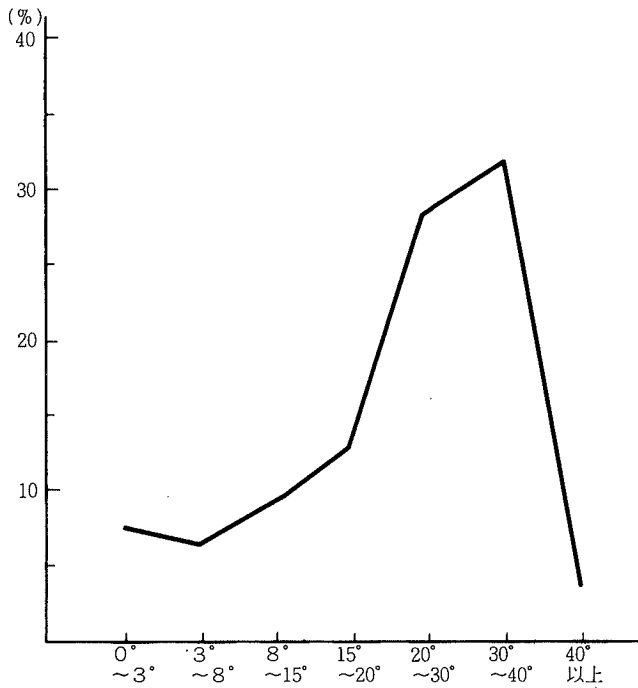
傾斜区分図を作成するに際しては、規定の角度と、となり合う高さの異なる等高線間の水平距離との関係を求め、それにもとづいたスケールを作成し、地形図の等高線間の水平距離を基図となる5万分1地形図上で計測し、傾斜角に読み換えて分類規準にもとづいて作成した。なお区分に際しては、地形図の精度や作成したスケールの精度等を考慮に入れて作成し、局部的には規定の傾斜角と異なる区分を行なっている所もある。これは、厳密な意味での絶対角度よりも、相対的傾斜の差を重視したからである。すなわち、実際の地形の特徴的な傾斜変換線を明瞭にする意図である。

区分規準は次のとおりである。

傾斜 3° 未満, 3° ~ 8° 未満, 8° ~ 15° 未満, 15° ~ 20° 未満, 20° ~ 30° 未満, 30° ~ 40° 未満, 40° 以上

以上のようにして作成した傾斜区分図からさらにドット法(メッシュの交点計測)で各傾斜の面積とその比率を求め、表と図に整理した。その結果、20° ~ 40° 未満の斜面が全体の60%を占めている。一般的には20° ~ 30° 未満, 30° ~ 40° 未満を比較した場合、20° ~ 30° 未満の地域が広い方が普通であるが、本図葉ではむしろ30° ~ 40° 未満の地域が広い。これはかなり浸食が盛んであることを意味している。特に和賀山地では40° 以上の極急斜面も現われており、深山幽谷の印象を与える。図葉南東部には15° ~ 20° 未満の斜面が広く、かつ2ランク上の30° ~ 40° 未満の斜面も比較的多くなっている。このような斜面上部に緩斜面があり、下部が急斜面である所では両斜面の接点付近で崩壊を発生し易い。このような傾向は貝沢野盆地の西側でも比較的顕著である。

第2図 傾斜区分頻度図



第3表 傾斜区分頻度

傾斜区分	陸地部分の総交点数	比率 (%)
3°未満	503	7.7
3°以上 8°未満	426	6.5
8°以上 15°未満	601	9.2
15°以上 20°未満	849	13.0
20°以上 30°未満	1,859	28.5
30°以上 40°未満	2,063	31.7
40°以上	218	3.4
計	6,519	100.0

## V 水系，谷密度

水系図は河幅 1.5 m 以上の河川，河幅 1.5 m 以下の自然河川，通常流のない谷線を写真判読，および地形図の読図から地形図に移写して作成した。また谷密度の計測方法は，図葉各辺を 20 等分し，これを基準メッシュとし，この基準メッシュ各辺を更に 2 分割したメッシュ（ $\frac{1}{2}$ 分割メッシュ）を作成する。次にこの  $\frac{1}{2}$ 分割メッシュの各辺を横切る谷線，及び各辺に接する谷線の数を求め， $\frac{1}{2}$ 分割メッシュの谷密度とする。最終的な谷密度は基準メッシュ単位で  $\frac{1}{2}$ 分割メッシュの谷密度数の総和の数値をもって基準メッシュによる谷密度として示した。

以上のようにして作成された谷密度表と，水系図を比較すると，厳密な意味で局部的にみると，谷線の数と谷密度の数値との間に若干の相対的な差異が生じている場合がある。

すなわち，谷線の数が非常に多くても，その谷の長さが非常に短かくて， $\frac{1}{2}$ 分割メッシュ内に完全に含まれてしまい，各辺を横切ったり，各辺に接しない場合には，谷密度の計測の対象にならないからである。しかし全体的にみると  $\frac{1}{2}$ 分割メッシュで一次計測を行なっているのでかなり短かい谷線も大部分計測の対象となっているので，谷の数の相対的傾向は谷密度表から読み取れる。従って，この谷密度には単なる谷数の数値だけではなく，谷線の長さも考慮されており，その両者の総合された平均値を示しているものと言える。

以上のようにして作成された水系谷密度図からは，土地利用の難易度，開発計画の難易度，さらには地質構造等の差異等を読み取ることができる。なお，実際の利用の際には傾斜区分図，起伏量図等と併用することにより，より一層情報量を増やすことが可能となる。

以上のようにして作成した水系図を概観してみると，水系の平面的パターンや谷密度の点からかなり地域差があることを認めることができる。先づ目につく点は，水系の平面パターンの違いであるが，一般にそれ以外支谷を持たない谷を一次谷と呼び，一次谷と一次谷の合流した谷を二次谷と呼んでいる。この谷の最小単位である一次谷に注目してみると，一次谷の長さの短かい所では谷密度（枝分れの状態を指し，厳密には水系図に付属している谷密度表の数値とは意を異にする）が高く，一次谷の長さが長い所程，枝分れは少ない。

これらのパターンの違いをよくみると、枝分れの少ないのは起伏量の大きな山地にみられ、起伏量の小さな、あるいは標高の低い所ではむしろ枝分れの状態はよい。

水系パターンや谷密度を地質図と照合すると地質の差が水系に及ぼす影響の大きいことが良くわかる。例えば同じ安山岩でも新旧の違いでそのパターンは変り、また同じ流紋岩でも粘性の強さで谷密度は異なってくる。

本調査地域について言えば新しい安山岩、流紋岩、砂岩等の山地では谷密度が高く、凝灰岩や古い安山岩地域は概して谷密度は小さい。

(株式会社 地域開発コンサルタンツ)

## VI 防 災

自然災害は、自然現象と社会現象の接点において発生する災害現象としてとらえることができる。すなわち、人間活動の盛んでなかった時代には、そして人間活動の及ばない地域では、同じ現象でも災害とならない場合が多かったのである。洪水や地すべりなども、人間活動の及ばない地域では災害とはなり得ず、自然の営みの一つに過ぎないと言えよう。しかし、人間活動が盛んになるにつれ、より多くの地域が自然災害の発生する可能性を持つようになってきた。また、つい最近までは自然現象が加害者であり、社会現象は被害者であった。しかし、生産活動が人里離れた山の隅々まで及ぶようになった昨今では、自然災害を食止めるために行った事業、あるいは他の目的のために作られた諸施設が引き金となって災害をより大きなものにしてしまう場合も多い。今後の防災計画を考える場合はより多面的に計画段階における検討を要する所以もここにあると思われる。

### 1 水 害

本図幅内における主要河川は、日本海に注ぐ雄物川水系の生保内川、北上川水系の鶯宿川、和賀川、大荒沢川、横川、豊沢川などがある。

鶯宿川は雫石川の支流で丘陵地、台地を刻んで流れ、沖積谷とは比高があり洪水時の氾濫は沖積谷の内部に限られるとみられる。大荒沢川、横川流域に発達する沖積地は扇状地が広く分布していて大荒沢川の河谷での氾濫が考えられる。

本図幅地域内では重要水防区域および警戒区域の指定を受けている個所はないが、上述の二地区は水田や集落が発達していることもあり警戒を要する区域と考えられよう。

### 2 砂防、崩壊

本図幅地域はグリーン・タフや花崗岩、新期火山岩類が分布するために、これらを母岩とした風化生成粘土、マサなどが地すべり、崩壊等の災害をおこす危険性がある。安山岩や流紋岩の熔岩は硬質で風化を起こしていても節理が発達しているために落石を発生させることが多い。

本図幅地域における砂防指定地を第4表に示す。

第4表 砂防指定地一覧表

番号	水系名	河川名	位置
1	雄物川	長内沢川	秋田県仙北郡田沢湖町
2	〃	八木沢川	〃
3	〃	部名垂沢	〃
4	〃	志渡内沢川	〃
5	北上川	大荒沢川	和賀郡沢内村北川舟
6	〃	横川	〃 大木原
7	〃	戸沢川	岩手郡雫石町戸沢
8	〃	九十九沢	〃 九十九沢
9	〃	北の股沢	〃

これらの指定地は、①～⑤までは花崗岩のみあるいは、花崗岩とグリーン・タフ、⑥以降はいずれもグリーン・タフの分布する地域にある。

治山堰堤は秋田県内や志戸前川などに多く分布している。

道路危険地帯は第5表に示した。道路はいずれもが河川に沿って付けられているために落石や土砂崩壊の危険がある。番号2と3の間の峰越峠付近は指定されていないが崩壊の危険のある箇所がある。

第5表 道路危険地帯一覧表

番号	道路名	危険区間	危険項目
1	主要地方道盛岡横手間	岩手郡雫石町山伏	落石・雪崩
2	一般県道花巻雫石線	岩手郡雫石町レン滝	落石・雪崩
3	〃	花巻市峰越峠より桂沢	落石・土砂崩壊

### 3 凍雪害

本図幅地域は奥羽山地の最もけわしい山深い部分にあつて積雪量が多い地域であり、五番森から和賀岳にかけての山陵では残雪が夏まで残っていることがある。とくに沢

内村は岩手県でも屈指の豪雪地帯となっている。

主要道路での雪崩及び路面凍結には注意を要する。また、凍結融解作用による落石が法面において発生することがある。

雪崩危険箇所は主要地方道盛岡横手線の山伏トンネルの盛岡寄りに3箇所あり、このための防雪施設は防雪柵（4箇所，2,983.7 m），スノウシエッド（2箇所，193.5 m），雪崩柵（4箇所，609.0 m）がある。また、この道路には凍雪害防止施設が施されている。雪崩危険箇所は県道花巻雫石線にもあるが防雪施設はない。

（株式会社 地域開発コンサルタンツ）

### 参 考 文 献

岩手県地域防災計画（昭和53年）：岩手県防災会議

昭和53年度岩手県水防計画：岩手県

砂防指定地調及び砂防指定箇所図：岩手県土木部砂防課

昭和51年一般国道および地方道落石等通行危険箇所調書：岩手県土木部道路維持課

昭和53年秋田県水防計画：秋田県

砂防指定地調及び砂防指定箇所図：秋田県土木部砂防課

その他 青森・秋田両営林局管内営林署 / 岩手県・秋田県関係各課 / 農林・土木事務所調べ

## VII 起伏量

起伏量図は、地形図の縦横の各辺を20等分し、それによって形成される単位区画内における標高の最高値と最低値を等高線から読みとり、その高度差の絶対値の一位の位を四捨五入した。このようにして得られた数値の10分の1の値をもって起伏量として表わした。

従って実際の起伏量は作成された起伏量図の数値の10倍の値にほぼ等しい。また起伏量区分は第6表のとおりである。なお作成された起伏量図をもとにして、起伏量頻度分布、および開析度を求め、図化、図幅の全体的傾向を把握する資料とした。

以上のようにして作成した起伏量はある程度の拡がりをもつ地域の地形を概観し、大局的地形把握のための基礎資料として効果が発揮されるものであり、局部的な見方をしても、あまり意味をなさない。すなわち、起伏量は、人為的に地形とは無関係に設定した単位区画内における最高点と最低点との高度差を示したものであり、その値は斜面の傾斜角度や方向、谷の粗密、海拔高度等の地形の諸要素が複雑にからみ合った結果として現われてくるために、単位区間の設定の変更によって結果がかなり変化してくる。従って、実形であらわした地形分類、あるいは現地における見かけ上の地形とは局部的に異なる場合が少なくない。ここで用いた単位区画は基準地域メッシュと呼ばれる規格化（JIS）されたもので面積が約1㎏のものである

第6表 起伏量区分

起伏量区分		区分値
	50 m未満	0
50 m以上	100 m未満	1
100 m以上	150 m未満	2
150 m以上	200 m未満	3
200 m以上	300 m未満	4
300 m以上	400 m未満	5
400 m以上	500 m未満	6
500 m以上	600 m未満	7
600 m以上	700 m未満	8
700 m以上		9

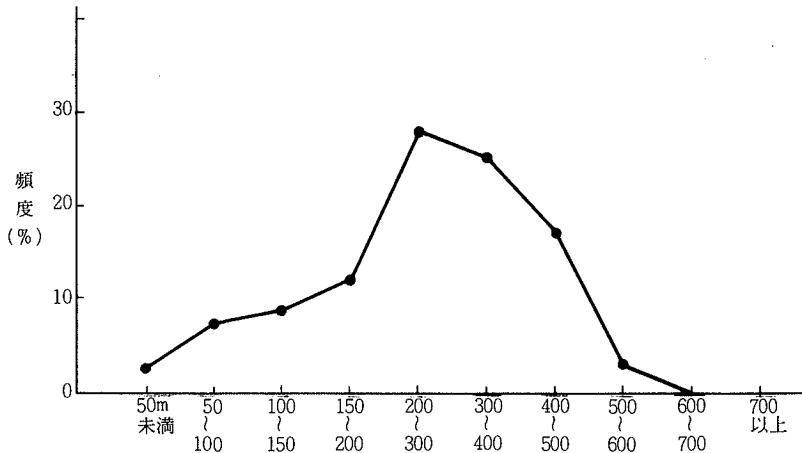


起伏量から本図幅をみると五番森から和賀岳にかけての急峻な山地及び須賀倉山周辺の山地、北川舟周辺の丘陵地、西安庭付近の台地とこれらをうめる山地の4つのタイプに分けられる。急峻な山地は起伏量が300 m以上でいわゆるグリーン・タフの分布する地域で、北川舟付近はグリーン・タフ時代の砂岩と扇状地堆積物からなる起伏量150 m以下の丘陵地性の地域で、西安庭周辺は起伏量100 m以下で主として段丘からなる地区である。これらの地区の間にある起伏量150～300 mの山地はグリーン・タフでも凝灰質な岩石を主体とする地域である。これらの地区は断層による影響を大きく受けている。(第1図)

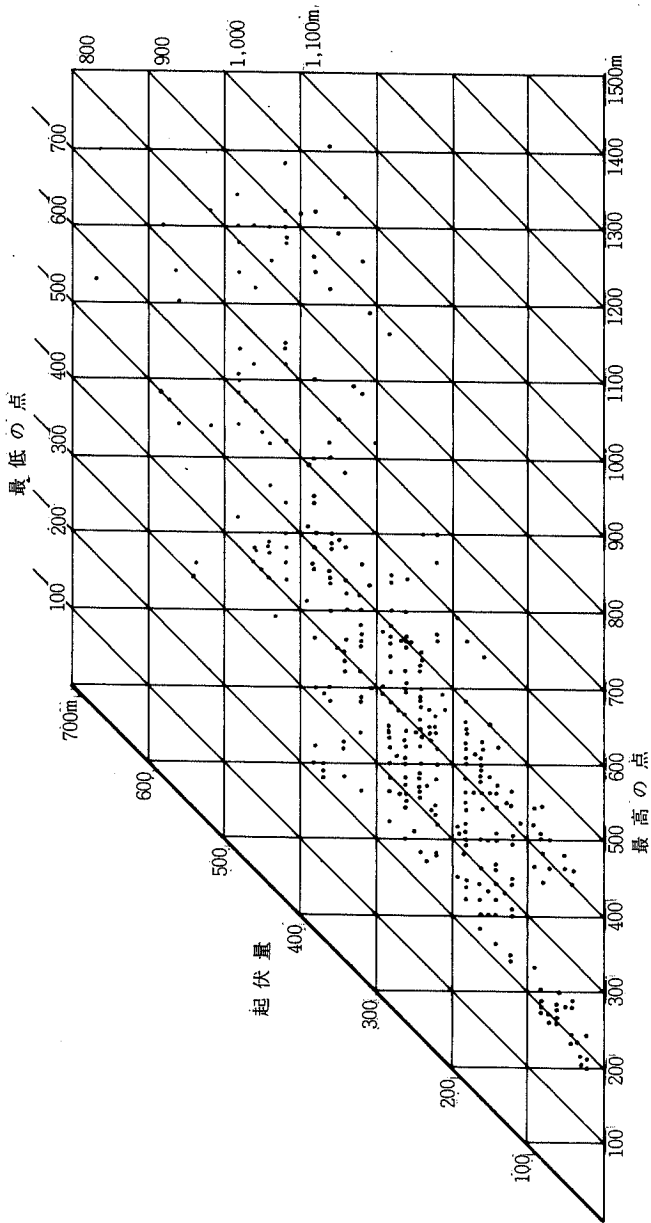
これらの地区のタイプを山地開析度で見るとつぎのようになる。急峻な山地のタイプは800 m以上の最高点をもち起伏量のばらつきの大きなものである。北川舟の丘陵地のタイプは起伏量が小さいが最高の点が400～500 mに集中しているもので地形的にやや単調なものである。西安庭のタイプは、起伏量も小さく最高の点も300 m以下であると同時に起伏量が最高点の増加に正比例して大きくなる傾向が他のタイプに比べて明瞭である。のこりの山地は、最高と最低の標高の間の比例関係があるが偏差の大きなタイプである。

開析が進んでいるのは上流部で、起伏量が小さいのは下流部であり、全体に開析が進んでいることがわかる。  
(株式会社 地域開発コンサルタント)

第3図 起伏量区分頻度図



第4図 山地開析度



第7表 土地分類図利用の参考資料

成 果 名	調 査 項 目	主 なる 用 途
地 形 分 類 図	地形区分1, 2級水系河川及びその流域界, 主な治水水利構造物, 国道, 県道	新幹線, 国際空港, 高速道路等の開発計画, 森林公園, 海岸公園等の計画, 住宅団地の開発, 学園都市計画等(土地利用基本計画の地域区分及び調整, 国土利用計画構想の主要テーマの選択)( )は以下省略
表 層 地 質 図	表層地質(垂直, 水平), 岩体(片)の硬さ, 堆積様式, 風化状態, 地下水等深線(井戸を含む), 基盤深度(未固結のみ), 地耐力, 鉱山, 鉱泉	大規模工業基地, 石油パイプライン網, 新幹線, 石油貯蔵基地等の開発計画, 地下水利用計画等
土 壌 図	土壌分布, 土壌酸度, 老朽化水田の範囲, 礫層, 砂層, 盤層等の有無, 土壌柱状図	農業整備計画, 林業整備計画, 都市後背農業地帯計画等
傾 斜 区 分 図	傾斜分布, 標高区分	各種開発計画特に草地造成計画, スキー場整備計画等
土 地 利 用 現 況 図	土地利用区分(土地利用形態)	土地利用計画, 都市計画等
水 系 ・ 谷 密 度 図	水系・谷密度	各種開発計画特に治山, 治水構造物の位置選定計画等
利 水 現 況 図	水系谷密度, 利水団体界, 利水用水幹線系統基準観測所(降水量, 水位流量, 水質地下水水位, 潮位など)の位置	工業用水, 都市用水, 農業用水等の利水計画, 治水計画, 発電計画等
防 災 図	地すべり地区, 砂防指定地, 保安林, 保安施設地区, 地下水規制区域, 地盤沈下区域, 冠水地域, 主な治山構造物	国土保全計画, 保安林整備計画, 水防計画, 都市計画
土 壌 生 産 力 区 分 図	土壌生産力等級区分	農業計画, 森林計画, 土地改良計画, 大規模畜産基地計画等
開 発 規 制 図	所有形態, 自然公園界, 重文天然記念物, 都市計画, 緑地帯, 国有林界, 保安林	各種開発計画との調整, 観光計画, 森林公園, 緑地公園等
起 伏 量 図	起 伏 量	各種開発事業の土木の難易性判定等
標 高 区 分 図		農業計画, 森林計画等

## あ と が き

- 1 本調査は国土調査法（昭和26年法律第180号）第5条第4項の規定により国土調査の指定を受け、国土庁の都道府県土地分類基本調査費補助金により、岩手県が事業主体となって実施したものである。
- 2 本調査成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
- 3 本調査は、下記作業規程準則に準拠して作成した「岩手県土地分類基本調査作業規程」に基づいて実施した。
  - 地形調査作業規程準則 （昭和29年7月2日 総理府令第50号）
  - 表層地質調査作業規程準則 （昭和29年8月21日 総理府令第65号）
  - 土壌調査作業規程準則 （昭和30年1月29日 総理府令第3号）
- 4 調査の実施、成果の作成機関及び関係担当者は下記のとおりである

## 調 査 担 当 者 一 覧

総合企画指導	国土庁土地局国土調査課	専門調査官	西 嶋 輝 之
総 括(53年度)	岩手県農政部北上山系開発室	室 長	土 門 隆 三
	“	開 発 監	畑 中 計 三
	“	開発監補佐	懸 武 久
	“	主 査	石 崎 金 吉
	“	技 師	石 川 良 男
(54年度)	“ 農政部構造改善課	課 長	宇佐美 忠
	“	課長補佐	岩 淵 公 夫
	“	係 長	菊 池 貢
地形分類調査	株式会社 地域開発コンサルタンツ		
表層地質調査	株式会社 地域開発コンサルタンツ		
土 壌 調 査	林野庁林業試験場東北支場	育 林 部 長	山 谷 孝 一
	“	土壌研究室長	丸 山 明 雄
	岩手県 林業試験場	育 林 部 長	照 井 隆 一
	“	専門研究員	金 田 宣 昭
	“	“	外 館 聖 八 朗

岩手県農業試験場

土壌肥料科長 白旗 秀雄

”

技 師 浅沼 正次

開発関連調査 株式会社 地域開発コンサルタンツ

(傾斜区分調査)

(水系谷密度調査)

(防災調査)

(起伏量調査)

協力機関

盛岡 営林署

雫石 ”

花巻 ”

田山 ”

生保内 ”

角館 ”

増田 ”

盛岡農林事務所

花巻 ”

図幅内関係市町村

1979年12月 印刷発行

土地分類基本調査

# 鶯 宿

編集発行 岩手県農政部構造改善課

岩手県盛岡市内丸10番1号

印刷 内外地図株式会社

東京都千代田区神田小川町3-22